

第十八回 徳川記念財団コンクール in 岡崎

徳川家康公 作文コンクール



「東照大権現像(霊夢)」
徳川記念財団所蔵

課題：「家康公と天下を取らせた三河の風土」
題名・内容は自由

応募期間：2021年9月1日(水)～9月30日(木)

主催／公益財団法人 徳川記念財団

後援／岡崎市、岡崎市教育委員会、岡崎商工会議所、中日新聞社、大樹寺、伊賀八幡宮

協力／タニザワフーズ㈱、一般社団法人 徳川家康公に学ぶ会、岡崎信用金庫



こちらのQRコードから
徳川記念財団表彰活動
をご覧いただけます



徳川宗家十八代当主
徳川記念財団理事長
徳川 恒孝

徳川記念財団コンクール in 岡崎 開催にあたって



徳川宗家十八代当主
徳川記念財団理事長
徳川 恒孝

平成16(2004)年に始まった徳川家康公作文コンクールが家康公の生誕の地である岡崎で、令和3年の今年も引き続き実施されることにつき、大変にありがたく感じています。

みなさんは、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活も、学外での時間の過ごし方も、大きな変化を経験しておいでだと思います。一方、国外に目を向けると、コロナとの戦いととも、様々な大きな変化の兆しが見て取れます。いつにも増して世界の激動を実感できる日々だと言えるでしょう。

今を去ること500年近く前に生まれた家康公もまた、激動の時代を生き、そしてその激動を終わらせ、日本人の多くが切望していた平和な時代の礎を築きました。そのような家康公の一生をふりかえり、学び、考えることは、今のような先行きの不透明な激変期においてこそ、価値のあることだと思います。

岡崎は、家康公の生誕の地であり、さらに岡崎城に拠った三河武士団は、家康公が開いた徳川幕府の骨格ともいべき役割を担うことになりました。このコンクールが、そのような岡崎に住むみなさんにとって郷土の歴史、伝統そして文化を改めて意識すること、そしてそのような郷土・岡崎への愛にあふれた大人へと成長して行かれることの一助となれば幸いです。

三人の「征夷大将軍」——三河の風土が育んだ天下人たち
岡崎市北東部の山中にある滝山寺。昔から修験者(修行をするお坊さんたち)の道場でもあったこのお寺に、大変美しい一体の仏像があります。「聖観音立像」。国の重要文化財にも指定されているこの仏像は、鎌倉幕府を開いた源頼朝と同じ身長であり、その胎内には頼朝の口髭と歯が納められています。武士の時代を創った頼朝と、この滝山寺には深い関係があったことを示しています。どのような関係があったのでしょうか。

家康公が生まれるずっと前の十二世紀中頃、頼朝の母方の祖父藤原季範は熱田神宮の大宮司(一番偉い宮司)であり、額田を領地として治めていました。そのようなことから滝山寺には頼朝の叔父や、従弟がお坊さんとしていたのですが、彼らが頼朝を助けたり、また大変仲良くしたのです。頼朝は鎌倉幕府を開くと、弟の範頼を三河国守に任命し、この三河を幕府の直接の領地と定めました。このようなことから、頼朝の死後には寺の中にお堂を建て聖観音像を祀ったのです。

源頼朝の先祖は「八幡太郎」と呼ばれている源義家で、源氏の棟梁として武士たちに尊敬された人物です。その義家から一族に足利氏がいます。鎌倉時代の半ばころには足利氏の三代目当主・足利義氏がこの三河国の守護を任せられました。義氏は一族の多くを矢作川の流域に呼び寄せ、それぞれの地を治めさせました。一族の武士たちは治めた地名を名字にしたことで、細川氏、仁木氏、長瀬氏、戸賀崎(戸崎)氏、上地氏(以上岡崎市内)、今川氏、吉良氏、一色氏などが生まれたのです。さらに彼らの家臣たちもこの地域に多く居住しました。特に粟生氏や倉持氏、高氏などがいます。彼らは鎌倉時代が終わると、足利尊氏が征夷大将軍となって室町幕府を開くと、幕府の重要な役について支えられた。尊氏は生前、自分の第二の故郷でもあるこの三河の地に、立派な寺院を建てたいと願っていましたが、孫の三代義満の時に実現しました。それが天恩寺(岡崎市片寄町)です。

やがて豊田の松平郷に興った松平氏が勢力を伸ばし、家康公の時に三河を統一することになります。家康公を支えた三河武士たちの多くも、そして家康公自身も、源氏、足利氏と続く三河の風土に育まれて成長をしたのです。

源頼朝は1192年征夷大将軍に任ぜられ、足利尊氏は1338年に、そして徳川家康公は1603年に、皆この風土から「征夷大将軍」へと上り詰めていったと考えても良いでしょう。



伝源頼朝像



こちらのQRコードから「徳川家康公作文コンクールin岡崎」の参考動画をご覧いただけます。

(YouTube 市橋章男 歴史チャンネルも参考にしてください。)

第18回「徳川記念財団コンクール in 岡崎」徳川家康公作文コンクール募集要項

課題 「家康公と天下を取らせた三河の風土」 題名・内容は自由

自分の住むまちと家康公や三河武士たちについて、本を読んだり、調べたり、近所の史跡に行き観たり、聞いたりして、感じたこと・思ったことを書いて下さい。

- 【参考例】 ①家康公と三河武士と岡崎について ②「三河武士のやかた家康館」に行ってみて
③家康公と京都と鎌倉のあいだの三河について ④いまに残る伝統行事、祭礼、産業、食などについて

対象 岡崎市内の小・中学校に在学中の児童・生徒

- 応募規定**
- 応募作品は自作の未発表のものに限り、1人1編とします。
 - 作品の著作権は、主催者に帰属します。
 - 作品の返却はしませんので、必要な場合は事前にコピーをして下さい。
 - 日本語により表記されたものに限り、作品の枚数は表紙を除き400字詰め縦書き原稿用紙で、小学校1・2年生は1枚程度、小学校3年生は2枚程度、小学校4～6年生と中学生は4枚程度とします。(図表も必要な場合は含む) 右上端をホチキスで留めてください。
 - 鉛筆(HBまたはB)で濃く書いてください。応募する児童・生徒の直筆に限り、ワープロ・パソコンの作品は認めません。
 - 作品には表紙を付け、「題名」、応募者の「学校名、学年、名前(ふりがな)」をご記入してください。

応募期間 2021年9月1日(水)～9月30日(木) 当日消印有効

送付先 応募方法 応募は学校ごとに取りまとめて応募リストに必要事項をご記入のうえ、作品と同封し送付して下さい。
送付先 〒444-0912 岡崎市井田西町1番地2 タニザワフーズ(株) 徳川記念財団コンクール in 岡崎 係

- 審査要項**
- | | | | |
|-------|--------|---------------|-----------------|
| 最優秀作品 | 徳川賞 1編 | 岡崎市賞 1編 | 岡崎市教育委員会教育長賞 1編 |
| 優秀作品 | 家康賞 3編 | 岡崎商工会議所会頭賞 1編 | 中日新聞社賞 1編 |
| | | 伊賀八幡宮宮司賞 1編 | 大樹寺賞 1編 |
| | | | 龍城神社宮司賞 1編 |
- 10月中旬に審査を行い、最優秀賞1編、優秀賞10編、合計11編程度を選定する。
- 受賞者に賞状ならびに副賞、応募者全員に参加賞があります。
入賞発表は11月初旬に行い、事務局より所属の小・中学校を通じて入賞者へ通知します。

その他 入賞者名及び優秀作品の一部は、公益財団法人 徳川記念財団のホームページに掲載します。また、入賞者は、報道発表において、氏名・学校名・作品・顔写真を掲載される事がありますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ 公益財団法人 徳川記念財団 〒151-0065 東京都渋谷区大山町37-6 Tel:03-5790-1110 Fax:03-5790-2621 <http://www.tokugawa.ne.jp>
タニザワフーズ株式会社 〒444-0912 愛知県岡崎市井田西町1番地2 Tel:0564-21-9171 Fax:0564-26-2209